

令和元年度 第二十四回 富山県立となみ野高等学校 卒業証書授与式 式辞

学び舎の青々とした松の枝葉を揺らすそよ風にも、春の気配を感じる頃となりました。本日、中本同窓会長様、呉岳PTA会長様をはじめとするご来賓の方々のご臨席のもと、保護者の皆様とともに、令和元年度富山県立となみ野高等学校卒業証書授与式を挙行できますことを、教職員を代表して感謝申し上げます。

保護者の皆様には、長きにわたってお子様を支え、今日の良き日を迎えられることを、さぞお喜びのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

只今、卒業証書を授与した29名の生徒の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。本校での学習活動を終え、皆さんが新たな活躍の場へと歩みを進められたことを、心から嬉しく思います。日々、地道に勉強を積み重ねて身につけた知識、自分の可能性を広げるために取得した資格を活用するとともに、体育大会やキャンパスフェスティバル、海外研修などの行事を通して生まれた友情や思い出を大切に、自分が選んだ新たな道をしっかりと歩んでください。

皆さんが知っているとおり、本校では学習や行事と関わって「挑戦」という言葉が多く使われます。たとえば、体育大会や文化祭などをチャレンジデーと呼んでいます。これは、本校の教育方針を定めた方々が、社会の中で出会う様々な問題に対し、そこから逃げないで、しっかりと向き合い、何ができるか、何をなすべきかを考え、挑戦していく姿勢こそ、生きていくために大切なことだと考えたからであると思います。この挑戦の姿勢のもと、皆さんは、高校生活での様々な問題を乗り越えて、今、この場にいます。今日のこの感激を忘れず、新たな世界で勇気を持って何事にも立ち向かっていってください。

皆さんへのはなむけとして、2つの言葉を紹介します。

まず「一隅を照らす」という言葉です。平安時代の高名な僧侶である最澄の言葉です。人はとかく他人と我が身を比べ、ねたんだり、自分の不遇をなげいたりしがちです。しかし、大切なのは、むしろ自分が与えられた場所で、自分の身につけた力を発揮して、しっかりと自分の役割を果たすことです。皆さんが生きているこの社会は、多くの人々が、それぞれの役割や仕事を責任をもって果たすことで成り立っています。家庭生活であれ、企業活動であれ、国の政治であれ、その構成員ひとりひとりの努力の成果によるものです。個々の力は決して大きなもので無いかも知れません。しかし、それぞれが自分の置かれた場所をしっかりと照らし、周りの人々を導くから、社会はしっかりと成り立つのです。皆さんも、自分の与えられた場所で、是非、輝いて欲しいと思います。

今ひとつは、「困難の中に、機会がある」という言葉です。現代物理学の父とも称され、相対性理論を発見したアルベルト・アインシュタインの言葉です。日本は、今、少子高齢化の問題、エネルギー問題、環境問題など多くの困難な問題を抱え「課題先進国」と言われています。これらは、皆さん一人一人が、まさに直面している課題であり、困難であると思います。しかし、日本には、たとえば幕末から近代社会への移行期における国際的地位の躍進、戦後の経済発展など、まさに困難な時機にその課題をチャンスに変えて歩んで来た歴史があります。今、直面しているいくつもの課題に怖じ気づくのではなく、むしろそれを見据えて、それをチャンスと感じて、その解決に立ち向かうことでこそ、よりよい未来が開けてくると信じます。

あと一月もすれば、皆さんそれぞれが咲き誇る桜の花のもとで、新たな決意を胸に歩み始めることとなります。桜の花は一斉に咲き、潔く散ってゆきます。しかし、その後、薫風の中で一所懸命にその枝葉を繁らせ、陽の光を受け止めて次の春のための準備をします。皆さんも、この葉桜のように、たとえ他人に気づかれなくても、謙虚に努力を積み重ね、時が来たら精一杯花を咲かせて、見る者を感動させるような社会人になってください。

卒業される皆さんに、幸多かれと願い、式辞といたします。

令和二年三月二日 富山県立となみ野高等学校  
校長 中 明 文 男